

事例7： 小田原市立病院（神奈川県）の取り組み

「2病棟が閉鎖し、患者の離床が制限された環境においても褥瘡発生率が減少できた」

概要

- (状況) 2病棟閉鎖（1棟44床×2、ICU4床、HCU4床）入院患者18人、職員16名が感染。
(支援) 感染対策のため看護師による車いすへの離床が制限/122日間。延べ788人（13.1人/日）の理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が各病棟の離床業務支援実施。
(結果) 褥瘡発生率が閉鎖前4月2.05、閉鎖後5月3.05、介入開始6月2.45、7月2.40と減少した。

コロナ対応病棟での支援

- ・ 感染患者へのリハビリテーションの提供：あり
（離床・移動動作への介入、重症者へのADL低下防止の介入、軽症者への自主トレ指導）
- ・ 活動・休息援助（歩行介助・移動の介助）
- ・ 夜勤業務：なし

その他の病棟での支援

- ・ 活動・休息援助
（歩行介助・移動の介助・移送、離床・移動動作への介入、病棟看護師含）
- ・ 創傷管理
（褥瘡の予防：褥瘡対策チームとしてポジショニングについての提案等）
- ・ 症状・生体機能管理
（身体計測：1病棟/循環器内の立位困難な患者の体重測定）
- ・ 夜勤業務：なし

病院プロフィール

- 病院の機能説明：
県西地域基幹病院（急性期）
地域がん診療連携拠点病院/
救命救急センター（3次救急）
/地域医療支援病院
- コロナ患者対応：あり
- 全病床数：417床
（コロナ感染専門1病棟18床）
8/1～重点医療機関協力病院
9/28～「高度医療機関（妊婦・小児も含む）」
- 感染対策の教育：
神奈川県C-CATの指導のもとゾーニング等の指導